

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 1 日作成)

| | | | |
|------------------------------|---|-------------------------------|-------------------------------|
| 小委員会名 | 火災安全設計小委員会 | | 主 査 名：大宮喜文 就任年月：2013 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 防火委員会 | | 委員長名：萩原一郎 |
| 設 置 期 間 | 2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月 | | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | 設置目的 性能的火災安全設計法に関する技術基盤の整備と普及・啓蒙を行う。 2013 年度：「火災安全設計の原則」フォローアップ、性能的火災安全設計の技術基盤として必要な項目の抽出を行う。 2014 年度：初年度に抽出した項目に関する課題整理 2015 年度：火災安全性能の見せる化に関する検討作業 2016 年度：火災安全性能評価に関するケーススタディ | | |
| 委員構成 (委員名 (所属)) | 委員公募の有無：有 大宮喜文 (東京理科大学)、山口純一 (大林組)、城明秀 (竹中工務店)、土屋伸一 (明野設備研究所)、中村三智之 (NTTファシリティーズ)、野竹 宏彰 (清水建設)、原田和典 (京都大学)、萩原一郎 (建築研究所)、松山 賢 (東京理科大学)、福井 潔 (日建設計)、北後明彦 (神戸大学)、峯岸良和 (竹中工務店)、北堀純 (明野設備研究所) | | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | 火災荷重・設計火災性状 WG：2013/3 に刊行した「火災荷重・設計火災性状指針(案)」について、フォローアップとさらなる検討を行い改訂版発行に向けた予備検討を行う。 火災性状予測計算ハンドブック WG：「関数電卓による火災性状計算(本会近畿支部資料)」をもとに火災性状予測のために設計者が携帯できる小冊子を作成する。 上階延焼検証 WG：上階延焼に関する知見を収集し実務者が使用できる上階延焼評価ツールをの構築を検討する。 対津波火災設計 WG：津波火災を考慮した津波避難ビルの設計手法について検討し、成果を集約することで対津波火災設計の参考となるガイドブックの作成を目的とする。 | | |
| 2016 年度予算 | 180,000 円 | ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： | |

| 項 目 | 自己評価 |
|---|---|
| 委員会開催数 | 6 回 (年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は 除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画 | |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パ ブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係) | 1. 「火災安全設計の原則」のフォローアップを行い、必要な項目の抽出を行うことができた。 2. 火災安全性能の見せる化に関する検討作業を行い、大凡の性能評価のフレームを構築することができた。 3. 2016 年度大会で OS「火災安全性能の定量化と火災安全設計」を実施した (参加者数約 50 名) |
| 委員会活動の問題点 ・課題 | 1. 火災安全性能の見せる化のケーススタディで対象とする実案件の選定方法に課題がみられる。 |